## ３　紙本金銀泥春日社頭図（伝春日権現験記台）六曲屏風　１隻　［有形文化財（絵画）］

［所在地］　奈良市春日野町

［所有者］　春日大社

［法　量］　縦　４２．５㎝　　横１９８．５㎝

［時　代］　鎌倉時代

［概　要］

本品は、春日社の社頭を主題とした、六曲一隻の屏風である。雲母引の料紙に金銀泥を用いて、一の鳥居から参道を通って御蓋山・春日山を望む景観が描かれている。

第１扇の一の鳥居を起点とし、第１扇から第６扇にかけて松や杉などの樹木が繁る社叢のもと、諸所に鹿が配される。第５扇・第６扇には、御蓋山・春日山・若草山の山並みがあらわされ、御蓋山の上方に日輪を描く。樹木や鹿の表現や、その極めて細緻な筆致は、中世絵巻の傑作として名高い、高階隆兼筆の「春日権現験記絵」（鎌倉時代・皇居三の丸尚蔵館所蔵）と近似しており、本品も隆兼あるいはその周辺の画家の関与によって制作されたものと考えられる。

また本品は、「験記絵」を開き設えるための台として用いられていたと伝えられている。作風から「験記絵」と近い時期の制作と見て矛盾せず、「験記絵」と密接に関わるものとして、わが国絵画史上重要な作例と評価できる。

昭和５４年に奈良市指定文化財に指定。